

English follows Japanese

創世記 14: 17-24 王であり祭司なるお方

それでは、これまでの背景を把握するために、今日見ていく聖句の直前の状況をちょっと見直してみましょう。

遠方の国の4人の王が団結してソドムの王と彼の同盟軍と戦うために来ました。ソドムの王とともに戦った兵士たちは逃げ出しました。そして、4人の王は北からソドムに入りソドムから財産と食糧とアブラムの甥であるロトを含めた人を奪いました。

アブラムはロトと財産が奪われたことを聞き、男たちを集めダンへ4人の王を追跡します。追跡は3日から5日間はかかったでしょう。アブラムが彼らに追いついた時、彼は攻撃し、打ち破り、そして4人の王をさらに北に追いかけます。この間、アブラムはすべての財産と彼の甥ロトを含む人たちも全員取り戻しました。そして、彼は南に帰りました。

まず、創世記 14 章 17 節を読みましょう。

創世記 14 章 17 節

17."アブラムが、ケドルオメルと彼に味方する王たちを打ち破って戻って来たとき、ソドムの王は、シャベの谷すなわち王の谷まで、彼を迎えに出て来た

ソドムの王と彼の同盟軍は当初打ち破られ、すべての財産と民を奪われました。それで、ソドムの王は現在のエルサレム近辺の谷でアブラムに会うために出てきました。アブラムと彼の男たちの一団は彼らの命を懸けて財産を奪い返し、人々を救出しました。これによって、彼らには奪い返した財産の所有権があります。つまり、これらはすべてのアブラムの物となったのです。

創世記 14 節 18-20 節はこう言います。18.また、サレムの王メルキゼデクは、パンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。

19.彼はアブラムを祝福して言った。「アブラムに祝福あれ。いと高き神、天と地を造られた方より。

20.いと高き神に誉れあれ。あなたの敵をあなたの手に渡された方に。」アブラムはすべての物の十分の一を彼に与えた。“

そしてこの物語の真ん中で 何の前触れもなく忽然と新しい人物がその場面に登場します。彼は同じように忽然とその場からいなくなります。彼の名はメルキゼデク。このメルキゼデクという方は私たちのイエス・キリストを理解する上で重要です。なぜそうなのはこの説教の終盤に知ります。

メルキゼデクは王であり祭司です。彼は現代のエルサレムが位置するサレムの王です。

彼は天と地の創造主、いと高き神の祭司です。メルキゼデクはアブラムに会うために出てきます。そして、パンとぶどう酒を持ってきます。

メルキゼデクは二つの事をします。(1) 彼は、いと高き神の御名によってアブラムを祝福します。そして(2) 彼はアブラムの財産と人々を奪い返す成功をいと高き神に帰します。それを創世記 14 章 19 節に見ます。19. 彼はアブラムを祝福して言った。「アブラムに祝福あれ。いと高き神、天と地を造られた方より。

アブラムが彼に成功を与えたのは、いと高き神であるとメルキゼデクに同意した事をどうしてわかるのでしょうか。それはアブラムが彼が奪い返した全財産の十分の一をメルキゼデクに与えたからです。そして、アブラムはなぜ差し出したのでしょうか。メルキゼデクがいと高き神の祭司だったからです。

彼が取り戻したすべての十分の一を与えることによって彼は解放はいと高き神から来たことをメルキゼデクと同意したことを示し、アブラムはメルキゼデクを通していと高き神に感謝したのです。

聖書で‘いと高き神’の表現が使われたのはこれが初めてです。これ以降、神に言及する時に‘いと高き’の表現は旧約聖書でさらに 42 回、新約聖書では 9 回用いられています。

ここ創世記 14 章で、メルキゼデクは、いと高き神は天と地を造られた方、または別の訳では、天と地の所有者と言っています。この表現は、神がすべてを創造されたので、すべては神の物と

考えることができます。神が創造物を所有されています。つまり、神の物でないものなど存在しないのです。

神が誰であるかについての啓示がアブラムに明らかにされていく時、アブラムは真理を聞きその真理に信仰によって応答します。

アブラムは彼が自分自身の命を懸けてロトと財産とソドムの人々救う状況を通して、神についてより理解しました。つまり、アブラムは神がいと高き神であり、天と地の創造主の神である。そして、アブラムの生涯、特に彼の勝利や成功に関しては神に主権があることを理解したのです。

アブラムがメルキゼデクに十分の一を与えることによって示したアブラムの賛美の反応の後、ソドムの王がアブラムと交流するのを 21 節で見ます。創世記 14 章 21 節 21.ソドムの王はアブラムに言った。「人々は私に返し、財産はあなたが取ってください。」

アブラムがメルキゼデクに十分の一を与えることによって、アブラムは彼が取り戻した財産をどうするかを決定する権利を有することを示しています。しかし、ここ 21 節ではソドムの王は財産の権利を持たないにもかかわらず、彼は人々を返すように求め、アブラムに財産を与えます。

そして、22-24 節でアブラムの厳しく強い反応を読みます。22.アブラムはソドムの王に言った。「私は、いと高き神、天と地を造られた方、主に誓う。

23.糸一本、履き物のひも一本さえ、私はあなたの所有物から何一つ取らない。それは、『アブラムを富ませたのは、この私だ』とあなたが言わないようにするためだ。

24.ただ、若い者たちが食べた物と、私と一緒に行動した人たちの取り分は別だ。アネルとエシュコルとマムレには、彼らの取り分を取らせるように。」

アブラムは取り戻した財産を受け取ることを一切拒否します。そして、彼の述べる理由はとても単刀直入で辛辣でした。アブラムは、いと高き神に彼はソドムの王がアブラムを富ませたのは彼であると決して言えないように、彼の所有物から何一つ取らないと誓いました。アブラムの反応はなぜそれほど強く厳しかったのでしょうか。その手掛かりは創世記 13 章 13 節に見つかります。

創世記 13 章 13 節

"ところが、ソドムの人々は邪悪で、主に対して甚だしく罪深い者たちであった。"

ロトとアブラムが彼らのそれぞれの群れに十分な場所を与えるためにその地の別々な場所に分かれた時にはすでにソドムの人々は邪悪で、主に対して多くの罪を犯していました。アブラムのソドムの王に対する反応が厳しかったのはその王が神を賛美礼拝する王ではなかったからです。彼の民は邪悪でした。信仰の人、アブラムは邪悪と一切関わりを持つことを望みませんでした。

それではなぜアブラムはソドムから人々を連れ去った 4 人の王を追跡したのでしょうか。

それはロトとロトの所有物を奪い返すためでした。ロトはアブラムに対して尊敬も親切心も見せませんでした。アブラムはロトに憐れみ深かったのです。

それで、アブラムが財産の所有権を取り戻したので、アブラムにはその財産をどうするかを決める権利がありました。彼は彼の同盟に彼らの分け前を取らせ、ソドムの人々と残りの財産をソドムの王に返しました。

あなたはいまだかつて、あなたが権利を持っている物を福音のためにその権利を放棄する選択ができる立場にいたことがありますか。例えば、あなたの隣人の木があなたの敷地内に張り出して来たとします。もめごとにする代わりにあなたは福音のために良い関係を保つために文句を言う権利を放棄します。

私たちの権利を放棄することは簡単ではありません。しかし、わたしたちの行いは自分たちが王としてではなく、王であるイエスが支配するべきです。多くの場合それは神の御国のために地上の権利を放棄することを意味します。このメルキゼデクという人は詩編 110 篇とヘブル人への手紙 5 章から 7 章でも出てくるので、少しの間、祭司であり王でもあるメルキゼデクに関することに戻しましょう。

モーセとイスラエル人がエジプトを離れた後、神はイスラエル人を教えるためにモーセに律法を与えました。旧約聖書の律法には、一人の人が同時に王と祭司になることを妨げるものではありませんでした。しかし、イスラエルの歴史では、神は祭司はレビの部族から来るよう、そして、王はダビデのユダの部族の系図から来るよう指定されました。

王が一つの部族の系図から、祭司が別の系図から来たので、イスラエルでは一人の人が王と祭司両地位に就くことは出来ませんでした。しかし、ヘブライ人はアブラムから来るので、メルキゼデクはヘブライ人ではありませんでした。ですから、一人の人が同時に王と祭司であるという概念と神がそのように定められた状況でヘブライ人の間ではそれは可能ではなかったということ覚えていてください。

旧約聖書と新約聖書の関係について語る時、よく旧約聖書の預言について話します。これらの預言は新約聖書の人物や出来事に直接言い及んでいます。例えば、イザヤ記 40 章 1-9 節の預言はメシアの道を備えるバプテスタのヨハネのミニストリーを予示しています。そして、この預言はマルコの福音書 1 章 2-3 節で預言として確認されています。

二つ目の旧約聖書と新約聖書の関係を類型論と呼びます。簡単に言うと、類型論は旧約聖書の人物や状況がキリストに向かって指し示すことです。道標のようなもので、それ自体より、さらに大きな偉大なものを指し示しているのです。

あなたが富士山へ向かう道で富士山方面を指す道路標識を見る時、その標識はそれ自体よりはるかに大きな何かに導きます。あなたは道路標識を見て、すごい富士山だと感心しないでしょう。あなたは道路標識に従って富士山に行きます。同じように、旧約聖書の類型論もそれ自体より偉大な実在を指し示しています。

類型論の一つの例はヨナです。ヨナはイエス様が葬られたことと三日目に復活されたことの預言としては触れられていません。ヨナは類型なのです。つまり、神がどのように救いの御計画を明らかにされるかを示しているか、新約聖書の著者が旧約聖書を振り返ることでメシアの実在についてヨナの物語は指し示しているのです。

マタイの福音書 12 章で、宗教指導者たちはイエスに彼が本当にメシアであることを証明するしるしを要求しました。そして、イエスは 39-40 節で答えます。マタイの福音書 12 章 39~40 節

39."しかし、イエスは答えられた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし預言者ヨナのしるしは別です。

40.ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。"

それではこの類型論と創世記 14 章とどんな関連があるのでしょうか。メルキゼデクは類型だったのです。彼はしるしであり、彼以上のさらに偉大な実在を指し示していたのです。聖書全体で創世記 14 章以降でメルキゼデクが言及される場所があと二つあります。詩編 110 篇とヘブル人への手紙 5-7 章です。ヘブル人への手紙 5-7 章は創世記 14 章と詩編 110 篇の聖霊によって与えられた解釈です。メルキゼデクを十分に理解するためにこの二つの聖句を見る必要があります。

詩編 110 篇は新約聖書で最も引用される詩編です。メシア信仰の詩編だからです。つまり、未来のメシアについての詩編であり、ルカの福音書 20 章で、イエス様でさえ詩編 110 篇をその時代の宗教指導者たちのメシアについての間違っただけの思い込みを打ち砕くために引用されました。

私たちの目的にとり最も関連性のある詩編 110 篇の部分を読みましょう。

詩篇 110 篇 2~4 節

2."主はあなたの力の杖をシオンから伸ばされる。「あなたの敵のただ中で治めよ」と。

3.あなたの民はあなたの戦いの日に喜んで仕える。聖なる威光をまとして夜明け前から。あなたの若さは朝露のようだ。

4.主は誓われた。思い直されることはない。「あなたはメルキゼデクの例に倣いとこしえに祭司である。」

この詩編で神はダビデを通して、ダビデの子孫で王になる者がいることを語られています。これはサムエル記下 7 章の神のダビデとの契約を基に知るところです。とこしえの王がダビデの系図から出ることは新しい情報ではありません。ですから、旧約聖書でメシアが王であることについては今日は時間を費やすことはしません。しかし、衝撃的な情報を見たいと思います。詩編 110 篇 4 節が衝撃的な情報です。未来の王は神によって遣わされたダビデの系図のとこしえの祭司でもあるのです。

詩編 110 篇の要点はダビデの系図の神に遣わされたとこしえの王であり祭司についてです。彼はアーロンの系図の祭司ではありません。ですが、彼はメルキゼデクのような王であり祭司なのです。そして彼はとこしえの王であり祭司なのです。

そして、この解釈が新約聖書が詩編 110 篇の解釈の仕方でもあります。メシア的預言であり類型、しるし、を含み、その類型はメシアについての実在を指し示す物語の持ち主メルキゼデクです。その実在とは何でしょうか。とこしえの王であり祭司であるお方があるということです。

しかし、わたしたちは、だからどうなのですか、と言う質問をしなければなりません。

イエス様が

王であり祭司なる方であることは重要なことなのですか。

これに答えるには、ヘブル人への手紙 7 章 1~3 節を読みましょう。

1."このメルキゼデクはサレムの王で、いと高き神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを迎えて祝福しました。

2.アブラハムは彼に、すべての物の十分の一を分け与えました。彼の名は訳すと、まず「義の王」、次に「サレムの王」、すなわち「平和の王」です。

3.父もなく、母もなく、系図もなく、生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされて、いつまでも祭司としてとどまっているのです。"

ヘブル人への手紙の著者はメルキゼデクは神の御子を指し示していると言っています。祭司は何をしていたのでしょうか。祭司は神と民の間の仲介者として立ち、民の罪のためのいけにえを献げました。

レビの部族の祭司の問題は彼らは全員一時的な祭司であり、民の罪だけではなく彼ら自身の罪のためにもいけにえを献げなければなりません。そして、神と人類の間の完全なる和解は動物のいけにえでは決して成し遂げられないので、彼らは毎月毎月、毎年毎年いけにえを献げ続けるほかなかったのです。

しかし、もし一回の完璧ないけにえを献げて、そのいけにえを献げた後、祭司としてとこしえに留まることができれば、神との和解もとこしえに留まります。

完全な大祭司なるイエスは父なる神と私たちを和解させるために、彼自身の体を一回きりのいけにえとして献げました。

ヘブル人への手紙 7 章 11~12 節

11."民はレビ族の祭司職に基づいて律法を与えられました。もしその祭司職によって完全さに到達できたのなら、それ以上何の必要があって、アロンに倣ってではなく、メルキゼデクに倣ってと言われる、別の祭司が立てられたのでしょうか。

12.祭司職が変われば、必ず律法も変わらなければなりません。"

著者はこう言っています。神と人類のとしえの和解はレビの部族の祭司を通しては達成できませんでした。ですから、としえに祭司として留まる、他の種類の祭司が来る必要がありました。

そして12節で良い知らせを見つけます。祭司の系図が変わる時、律法も変えられねばなりません。神と人類の完全に和解させることができなかった、レビ族の祭司職の元の古い律法は、イエス・キリストが彼自身の体のいけにえを通して祭司となられたときに変えられました。

死のみを生じさせた古い律法は廃止されました。キリストの律法である新しい律法が効力を発します。キリストの律法は罪からの解放と父なる神との和解です。私たちは今、御霊を通して、神の愛を全身全霊で追い求め、私たちの隣人を私たち自身同様に愛することができます。

ヘブル人への手紙 7章14~17節

14."私たちの主がユダ族から出られたことは明らかですが、この部族について、モーセは祭司に関することを何も述べていないのです。

15.もしメルキゼデクと同じような、別の祭司が立つなら、以上のことはますます明らかになります。

16.その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらず、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです。

17.この方について、こう証しされています。「あなたは、メルキゼデクの例に倣い、としえに祭司である。」"

ここでヘブル人への手紙の著者はこのメシア信仰的詩編がイエス・キリストの事であることを示すために詩編110篇を引用します。彼はイエス・キリストはとしえに私たちの王であり祭司であることを具体的に示します。

しかし、何を根拠にしているのでしょうか。イエスはそうやってとしえに大祭司として留まることができるのでしょうか。それは朽ちることのない、いのちの力によってです。イエス・キリストは十字架の上にはりつけられ、葬られ、三日目に死から蘇られました。彼は昇天され、神の右の御座でこの地上から神の子ら、生きている者も死んでいる者も、集める彼の再臨の時まで待たれています。

イエスを信じた人たちにとり彼は私たちの王であり大祭司です。彼は私たちを神ととしえに和解させてくれました。私たちのために御自身を犠牲とされたような偉大な大祭司を持つことを今日心から喜びましょう。

まだ信じていない方々のために、聖書はこう言っています。神と和解するためには、最初に私たちは、いと高き神をその誉に相応しい栄誉と賛美を献げることができなかった事を認めます。神には毎日常に然るべき栄誉と感謝を献げることが相応しいが、私たちはそれをしませんでした。

第二に、わたしたちがそのように神の栄誉をたたえなかったことは刑罰に値することに気づかなければなりません。聖書によるとその罰はとしえの罰です。

第三に、わたしたちは、イエスはわたしたちが神の栄誉をたたえなかったための罰として十字架の上で死んだことを信じ、イエスが三日目に死から復活されたことを信じなければなりません。

そして、第四に、私たちは悔い改めなければなりません。つまり、わたしたちは神へ向かって永遠の命の道を行くために、自分たちの刑罰に向かう道から向きを変えるのです。

これが起こる時、イエスはわたしたちの王であり祭司となります。私たちは私たちを創造された神と和解します。あなたがまだイエス様を信じていなければ、今日、これらの事をよく考えてあなたの生きる道を選ぶようあなたに強くお勧めします。

Genesis 14:17-24 A King and Priest

Let's quickly review the circumstances immediately before the passage we are looking at today so that we can have the context. Four kings from a country far away had banded together and came to fight with the king of Sodom and his allies. The soldiers who fought with the king of Sodom fled from the battle, which meant the four kings from the north went into Sodom and seized all of the goods, food, and people from Sodom, including Lot, the nephew of Abram. Abram hears about Lot and all his possessions being taken, gathers a group of men, and pursues the four kings to Dan. The pursuit would have taken three to five days. When Abram catches up to them, he attacks, defeats, and then chases the four kings even further north. During this time, Abram recovered all of the goods and all of the people, including his nephew Lot. And so, he returned south.

Let's begin by reading Genesis 14:17. "17 After Abram returned from defeating Kedorlaomer and the kings allied with him, the king of Sodom came out to meet him in the Valley of Shaveh (that is, the King's Valley)." The king of Sodom and his allies had initially been defeated, and all of the goods and people had been taken. And so the king of Sodom came out to meet Abram in a valley near modern-day Jerusalem. Abram and his band of men had rescued the goods and people at the risk of their own lives, and because of this, they had the right of possession over the goods that they had recovered. That is to say, these goods were now Abram's. It says in Genesis 14:18-20, "18 Then Melchizedek king of Salem brought out bread and wine. He was priest of God Most High, 19 and he blessed Abram, saying, 'Blessed be Abram by God Most High, Creator of heaven and earth. 20 And praise be to God Most High, who delivered your enemies into your hand.'" Then Abram gave him a tenth of everything." And here in the middle of the story, without warning, we have a new character who comes on the scene, and he exits the scene just as quickly. His name is Melchizedek. This person called Melchizedek is significant for our understanding about Jesus Christ, and we will see why towards the end of the sermon.

Melchizedek is both a king and a priest. He is king of Salem, which is where modern-day Jerusalem is. And he is priest of God Most High, Creator of heaven and earth. Melchizedek comes out to meet Abram as well, and he brings Abram bread and wine. Melchizedek does two things: (1) he blesses Abram in the name of God Most High, and (2) he attributes Abram's success to God Most High for regaining the goods and the people. We read here in Gen 14:19, "And praise be to God Most High, who delivered your enemies into your hand." How do we know that Abram agreed with Melchizedek that it was God Most High who gave him the success? It was because Abram gave a tenth of all of the goods and possessions he had recovered to Melchizedek. And why did Abram give it? Because Melchizedek was priest of God Most High. By giving of a tenth of everything he had recovered, Abram showed that he agreed with Melchizedek that the deliverance had come from God Most High, and so Abram was thanking God Most High through Melchizedek.

This is the first time that the phrase "God Most High" is used in Bible. After this point, in order to refer to God, the phrase "Most High" occurs 42 more times in the Old Testament and 9 times in the New Testament. Here in Genesis 14, Melchizedek says that "God Most High" is "Creator of heaven and earth" or another way to translate this phrase, "Possessor of heaven and earth". We can think of this phrase in this way: because God created all things, they are his. He possesses them. That means, there is nothing that is not his.

Revelation about who God is is unfolding to Abram, and as Abram hears the truth, he responds in faith to that truth. Here in Genesis 14, Abram is hearing this truth about God Most High and responding in faith to that truth. Abram comes to understand more about who God is through this situation of having to risk his own life to save Lot and the goods and people of Sodom. That is, Abram comes to understand more deeply that God is the Most High God, that God is Creator of heaven and earth, and that God is sovereign over Abram's life when it comes to his victories.

After Abram's response of praise to God Most High by giving the tenth to Melchizedek, we see the king of Sodom interact with Abram in verse 21. In Genesis 14:21, it says, "Then the king of Sodom said to Abram, 'Give me the people, but take the possessions for yourself.'" By Abram giving ten

percent to Melchizedek, Abram shows that he possesses the right of decision over what to do with the goods that were recovered. But here in verse 21, even though he had no right over the goods, the king of Sodom demands the people back but gives the possessions to Abram.

And so in verse 22-24, we read Abram's sharp and strong response. "22 But Abram said to the king of Sodom, "I have raised my hand in an oath to the Lord, God Most High, Creator of heaven and earth, 23 that I will not take a thread or sandal strap or anything that belongs to you, so you can never say, 'I made Abram rich.' 24 I will take nothing except what the servants have eaten. But as for the share of the men who came with me—Aner, Eshcol, and Mamre—they can take their share."

Abram refuses to keep any of the goods that were recovered, and his reason is very direct and sharp. Abram made an oath to God Most High that he would not take anything that belongs to the king of Sodom so that he could never say that he made Abram rich. Why was Abram's reaction so strong and so sharp? There is a clue that we find back in Genesis 13:13. "Now the people of Sodom were wicked and were sinning greatly against the Lord." When Lot and Abram had went to different parts of the land in order to give enough space for their respective flocks, it was already known that the people of Sodom were wicked and were sinning greatly against the Lord. Abram's response to the king of Sodom is strong because that king was not a king who honored God. His people were wicked. Abram, a man of faith, wanted nothing to do with wickedness. Then why did Abram pursue those four kings who had taken the people from Sodom? It was to rescue Lot and Lot's possessions. Abram was being merciful to Lot, even though Lot had not acted honorably toward Abram. So, because Abram took possession of the goods, Abram still had right of decision on what happened to the goods. He allows his allies to take their share, and he allows all the people of Sodom and the remaining goods to be given back to the king of Sodom. Are you ever in a position where you have a right to something but for the sake of the Gospel, you could choose to give up your right? For example, perhaps your neighbor's tree encroaches on your property, but instead of making a big deal out of it, you give up the right to say something in order to maintain a good relationship for the sake of the Gospel. It is hard to give up our rights. But our actions are to be ruled by King Jesus rather than king self, which often means giving up earthly rights for the sake of God's Kingdom.

Because this person Melchizedek comes up in both Psalm 110 and in Hebrews 5-7, let's return back to Melchizedek for a few minutes, especially with regard to him being both priest and king. After Moses and the Israelites had left Egypt, God gave the law to Moses to teach to the Israelites. There is no law in the Old Testament that prevents a single individual from being both king and priest at the same time. But in the history of Israel, God designated the priests to come from the tribe of Levi, and he chose the kings to come from the line of David, who was from the tribe of Judah. Since the kings came from one tribal lineage and the priests came from another, there could not be a single individual who could be both king and priest in Israel. But Melchizedek was not a Hebrew, since the Hebrews came from Abram. So, let's keep in mind this concept of one individual being both a king and a priest and how this was not possible among the Hebrews in the way God ordained the situation.

When we talk about the relationship between the Old Testament and the New Testament, sometimes we talk about **prophecies** that are found in the Old Testament. These prophecies refer directly to people or events in the New Testament. For example, the prophecy in Isaiah 40:1-9 foreshadows the ministry of John the Baptist preparing the way for the Messiah, and this prophecy is affirmed as prophecy in Mark 1:2-3. There is a second kind of relationship between the Old Testament and New Testament called "**typology**". Simply put, typology is a person or situation in the Old Testament that points forward to Christ. It's like a road sign that points to some reality greater than itself. When you see a sign pointing you to the road that leads to Mt. Fuji, the sign is pointing to a something greater than itself. You don't look at the road sign itself to admire Mt. Fuji and say "wow, there's Mt. Fuji." You follow the road sign to get to Mt. Fuji. In the same way, the typology in the Old Testament points forward to a reality greater than itself. One example of typology is Jonah. Jonah is not referred to as a prophecy about Jesus being buried and raising again on the third day, but rather, Jonah is a type. That is, Jonah's story points forward to a reality about the Messiah that the New Testament authors could look back on in the Old Testament to show how God was unfolding His plan of salvation. In Matthew 12, the religious leaders asked Jesus for a sign to prove that he really

was the Messiah, and Jesus replies in verses 39-40, “39 A wicked and adulterous generation asks for a sign! But none will be given it except the sign of the prophet Jonah. 40 For as Jonah was three days and three nights in the belly of a huge fish, so the Son of Man will be three days and three nights in the heart of the earth.”

So, what does typology have to do with Genesis 14? Melchizedek was a type, a sign that pointed forward to a reality greater than himself. There are only two other places in the entire Bible where Melchizedek is mentioned after Genesis 14. Those are Psalm 110 and Hebrews 5-7. Hebrews 5-7 is the Holy Spirit-inspired interpretation of Genesis 14 and Psalm 110. In order to appreciate Melchizedek fully, we need to look at these two passages.

Psalm 110 is the most frequently quoted psalm in the New Testament. That’s because it is a messianic psalm. That is, it is understood to be a psalm about the future messiah, and even Jesus quotes Psalm 110 in order to thwart the wrong assumptions the religious leaders of his day had about the Messiah, in Luke 20. Let’s read the most relevant section of Psalm 110 for our purposes. Psalm 110:2-4 says, “2 The Lord will extend your mighty scepter from Zion, saying, “Rule in the midst of your enemies!” 3 Your troops will be willing on your day of battle. Arrayed in holy splendor, your young men will come to you like dew from the morning’s womb. 4 The Lord has sworn and will not change his mind: “You are a priest forever, in the order of Melchizedek.”” In this psalm, God is talking to and through David to say that there is a descendant of David who will be king, and we expect this based on God’s covenant with David in 2 Samuel 7. Having a forever king in the line of David is not new information, and so I’m not going to spend time today talking about the Messiah as king in the Old Testament, but I want to look at the shocking information. Psalm 110:4 is the shocking piece of information—the future king will also be priest, forever. The point of Psalm 110 is about a forever king-priest sent by God in the line of David. He won’t be a priest in the line of Aaron, but rather he will be like Melchizedek, a king-priest. And he will be the king-priest **forever**. And this interpretation is how the New Testament interprets Psalm 110 as well—it is a messianic prophecy that also includes a type (a sign), and that type was Melchizedek whose story pointed forward to a reality about the Messiah. What reality is that? That there will be one man who is king-priest forever. But we have to ask the question: why does this matter? Why does it matter if Jesus is a king-priest?

To answer this, let’s read Hebrews 7:1-3, “1 This Melchizedek was king of Salem and priest of God Most High. He met Abraham returning from the defeat of the kings and blessed him, 2 and Abraham gave him a tenth of everything. First, the name Melchizedek means “king of righteousness”; then also, “king of Salem” means “king of peace.” 3 Without father or mother, without genealogy, without beginning of days or end of life, resembling the Son of God, he remains a priest forever.” We see the author of Hebrews saying that Melchizedek pointed forward to the Son of God. What did the priest do? The priest stood as an intermediary between God and the people, offering sacrifices for the sins of the people. The problem with the priests from the tribe of Levi is that they were all temporary priests who had to offer sacrifices for their own sins *and* for the sins of the people. AND they had to keep offering sacrifices month after month, year after year, since complete reconciliation between God and mankind could never be attained by the sacrifice of animals. But if there was a priest who could offer a perfect sacrifice one time and after offering that sacrifice, could continue to remain priest forever, then reconciliation between God and mankind would remain, forever. Jesus, being a perfect high priest, offered his own body as the one-time sacrifice in order to reconcile us to God the Father.

Hebrew 7:11-12 says, “If perfection could have been attained through the Levitical priesthood—and indeed the law given to the people established that priesthood—why was there still need for another priest to come, one in the order of Melchizedek, not in the order of Aaron? 12 For when the priesthood is changed, the law must be changed also. The author is saying this: forever reconciliation between God and mankind was not attainable through the priests who belonged to Levi’s tribe. So, there was a need for another type of priest to come, one who would remain priest forever. And in verse 12, we find good news: When the priestly line changes, the law must also be changed. The old law under the Levitical priesthood that could not completely reconcile God and mankind was changed

when Jesus Christ became priest through the sacrifice of his own body. The old law that produced only death was done away with. The new law, that is the law of Christ, comes into affect, and the law of Christ is freedom from sin and reconciliation with God the Father. We can now, through the Spirit, pursue loving God with all of ourself and loving our neighbor as ourself.

Hebrews 7:14-17 says, "For it is clear that our Lord descended from Judah, and in regard to that tribe Moses said nothing about priests. 15 And what we have said is even more clear if another priest like Melchizedek appears, 16 one who has become a priest not on the basis of a regulation as to his ancestry but on the basis of the power of an indestructible life. 17 For it is declared: "You are a priest forever, in the order of Melchizedek." Here the author of Hebrews quotes from Psalm 110 to show that this messianic psalm was about Jesus Christ. He shows specifically that Jesus Christ is our king and our high priest forever. But what is this based on? How can Jesus remain forever a high priest? It's on the basis of the power of an indestructible life. Jesus Christ was crucified on the cross, was buried, and on the third day, rose again from the dead. He ascended to heaven and is waiting at the right hand of God for the day when he returns to gather the children of God from this earth, both the living and the dead.

For those of us who have believed in Jesus, he is both our king and our high priest; he has reconciled us to God, forever. Let our hearts rejoice today that we have such a great high priest who sacrificed himself for us. For those who have not yet believed, the Bible tells us that in order to be reconciled to God, we first have to admit to God that we have failed to honor him as the Most High God in the way that he is due honor. He is due honor and thanks every second of every day, and we have all failed to give him that type of honor and thanks. Second, we have to realize that we deserve punishment for not honoring God in that way. According to the Bible, that punishment is an eternal punishment. Third, we have to believe that Jesus died on the cross as punishment for us not honoring God, and we have to believe that Jesus rose from the dead on the third day. And then fourth, we have to repent, which means turning away from our own path towards punishment in order to turn towards God's path of eternal life. When this happens, Jesus becomes our king and our priest, and we are reconciled to God who created us. Please, I encourage you today, if you have not yet believed in Jesus, meditate on these things and choose life.